



Bouquet

ブーケ

特集

新たな職業を拓いた女性達
……
歴史の中のキャリアウーマン
……



中央区女性ネットワーク主催の「春を呼ぶフルートの調べーハーモニーの創造」(7ページ)

No.
58
2009.3

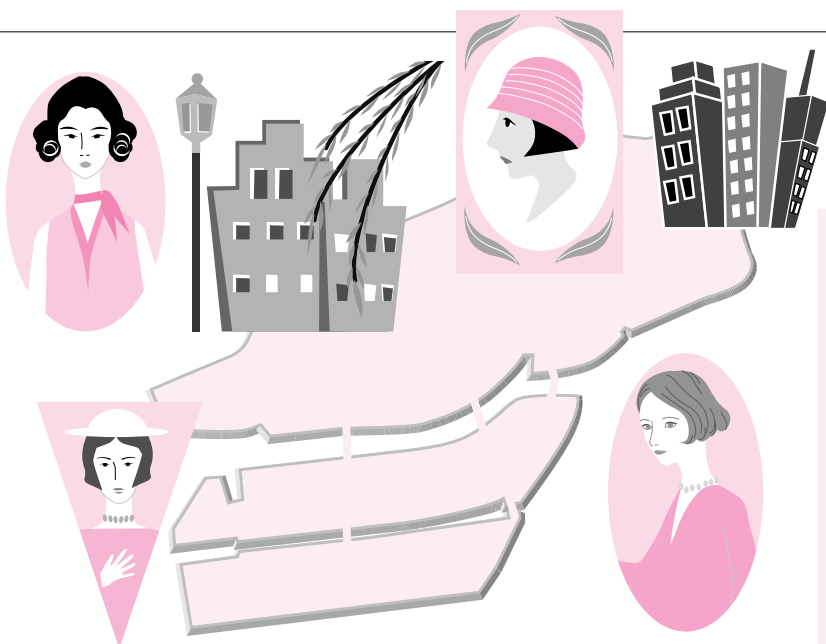
contents

特集 歴史の中のキャリアウーマン.....	2
中央区の「職業婦人」たち 江刺昭子さん	4
輝くひとにインタビュー in 中央区 渡辺明子さん	5
企業レポート⑨ 株式会社 東京コンサルト	6
ワーク・ライフ・バランスって何③ ワークライフバランスフェスタ東京2009...	6
中央区ニュース	7
TOPICS 「女性に対する暴力をなくす運動」啓発パネル展示	8

新たな職業を拓いた女性達

歴史の中のキャリアウーマン

女性が専門技術をもってキャリアを形成するのは、たやすいことではありません。とりわけ女性が外で働くことさえ疎まれた明治から昭和戦前に、未開拓の専門職分野に挑み、向かい風に頬を打たれながらも、道を切り拓いた女性たちがいます。どんな楽しさや苦勞があつたのでしょうか。医師、新聞記者、ファッションモデルの草分けである3人にインタビューしました。といっても、これは架空のインタビューで、彼女たちが語り、書き残したものを元に、口調や言葉遣いを生かしながら構成したものです。(構成・江刺昭子)



「女はだめだね」が口ぐせの 男装の女医

—高橋瑞子—

Q 明治期、医師は男の職業でしたね。
A 産婆より医者になりたかつたが、女は禁制でね。諦めてたが、荻野吟子さんが苦勞して女にも医療開業試験の途を開いたのが明治一七年。それなら私もと、取るものもとりあえず前橋から上京して、男子だけの医学校済生学舎に日参して入学を許されたつてわけさ。以後、女が締め出される三四年までに、四、五百名が済生学舎で学び、約百名の女医が生まれたそつだ。

Q 女は一人ですね。

A 六時始業だが、私は毎日四時半には学校に着いて一番前の席をとつた。私が教室を出入りするたびに、男たちの足踏み、悪たれ口、黒板に落書きされたりは日常茶飯。そんなのはなに、かまうもんか。敵は貧乏。質物も尽きたあとは針仕事で食いつないだが、夜分、まともに寝た覚えがない。だから実地研究の授業料が用意できないときに、夜具を売りはらつちまつた。ハハハ。

Q 日本橋元大工町で開業されましたね。

A 商人はともかく金廻りがいいもの、わけて日本橋界隈の旦那衆は気がいい。山の手のケチ臭い空気よりましと思つたからさ。男装したのは女だからつて馬鹿にされたくないからだが、洋行を思いついたのも、男医にまさる経歴が欲しかつたからさ。大学には入れなかつたが、1年間特別に産科の演習を見学させてもらつて役にたつたよ。

Q 男の医学生が寄食して、薬局や代診を手伝つたとか。

A 最初は女ばかり置いたが世話がやける。うつかり夜中に代診にも出せないし、そこへいくと男はどこへ放りだしても大丈夫。女はよわよわしくてどうも物足りないね。



プロフィール

高橋瑞子(たかはしみすこ)
1852(嘉永5)年、三河国生まれ。産婆を経て35歳のとき医師免許取得。翌年、日本橋で医院開業。黒紋付に二重廻しの男装で人力車に乗り往診、俠気たっぷりの女親分的気性が好まれ繁盛。3年後ベルリン大学留学を志すが女ゆえに入学できず帰国。再開業して62歳で引退。75歳で没、東京女子医専に献体された。

特集 新たな職業を拓いた女性達 歴史の中のキャリアウーマン

初めて飛行船に乗った女記者

磯村春子



プロフィール

磯村春子(いそむらはるこ)

1879(明治12)年、福島県生まれ。旧姓小泉。宮城女学校、日本女子大学校などに学び、結婚後の1905年、報知新聞記者になる。持ち前の語学力と行動力で、外国からの賓客のインタビューで活躍。子供は8人で長男の英一(後の都市社会学者)を取材に連れ歩きルビ付き記者と呼ばれた。小説執筆中39歳で死去。

Q なぜ、新聞記者に?

A 貿易商の磯村源透と結婚して翻訳をしてましたが、有楽町の報知新聞社から記者にならないかかって話がありましたね。

好奇心旺盛だから二つ返事で引き受けたの。子供は母が世話してくれました。

Q 家庭欄ではなく、新しい分野を開拓されましたね。

A 来日した米英の政財界人にはたいてい会ってます。横浜港で台風の日など小舟で沖の船までいくのは、女には危険だと止められましたが、職務の前に男女の区別はありません。女で初めて飛行船に乗ったのも私

でルポを書きました。明治四三年九月一日、品川の海がきれいでしたよ。

Q 女記者はスキャンダルで辞める人が多かったとか。

A 男の中に女一人ですから世間擦れはするが、それと異性問題で墮落するのは違う。新聞記者になったから墮落したのではなく、そういう女はどこに

いても墮落するものです。そうはいっても新聞雑誌の女記者はせいぜい二、三〇名、その中の数名が墮落したからって、男と比較したら取るに足りないこと。女記者をアクセサリとしか見ない新聞社の側にも問題がありますね。

カリスマモデルで、断髪のもが

駒井玲子



プロフィール

駒井玲子(こまいれいこ)

1908(明治41)年、鳥取県生まれ。本名長谷川清子。鳥取高女卒業後、上京。山野千枝子が創設した日本マネキン倶楽部でトップモデルとなる。待遇が不満で脱退し、31年に仲間と東京マネキン倶楽部を開業。断髪のもダンガールで、米映画女優のグロリア・スワンソンに似ていると評判になった。27歳で病没。

Q マネキンはどんな仕事ですか。

A 主な職場は百貨店。宣伝用の着物を着たり、装飾品や化粧品をお客様にお勧めします。半日、応接間に座って紅茶を飲むポーズをしてたこともあるのよ。お客様が「あれ、人形の目玉が動いた」なんて…モデルと宣伝員を兼ねた新しい職業です。

収入は当時の女の職業ではトップで、大学出の男の月給が五、六〇円の時二〇〇円以上。ところが日本マネキン倶楽部の取り分が多くてね、ストライキをしたの。その様子は高見順さんの小説「故旧忘れ得べき」に詳しいわ。

Q 新しい倶楽部は?

A 分裂して出た仲間と銀座に創った東京マネキン倶楽部は、私がマネージャーで民主的運営にしようとか会員制にしたの。皆の稼ぎの二割をクラブ運営費として出し合っ。面白いほど仕事が入ってきた。美人というだけでなく接客態度がよく、商品を勉強している人は売上手で、次もまたご指名があるわけ。

女だけの起業でしたが、社会的訓練が不足だったのか、また、仕事と給料の分配でもめてしまい、さらに、フォン・ファン協会を創ることになってしまいました。

中央区の「職業婦人」たち

——江刺昭子（女性史研究家）——

女はみんな働いていた

女にとって戦前と戦後の大きな変化の一つは、戦後の高度経済成長期以降専業主婦がどっと増えたこと。戦前の日本では女も農家の大切な働き手だったし、中央区のような商業地域では、大店の奥様だって「奥」で忙しく使用人を差配していた。小商店は言うまでもない。GDPを上げるためには安い労働力が必要で、大正期には全国で八〇万人もの女性工場労働者がいた。

明治末から昭和にかけての経済成長で企業の事務部門が拡大し、サービス業が盛んになる。その結果、会社が集金し、銀座という繁華街を抱えている中央区では職業婦人が増加する。

百貨店や銀行にも

職業婦人とは、教師、看護婦、産婆（助産師）、美容師、医師、記者、速記者、タイピストなど専門技術が必要とする仕事のほかに、通信局や電話局の職員、会社事務員、店



三越のエレベーターガール

員、バス車掌、カフェ女給、マネキン、ダンサーなど、新しい職業に用いられた給料を受け取れるところが前借金に縛られて働く工場労働者と違った。

花形は百貨店店員。

日本橋三越が一九〇〇（明治三三）年に

三人採用したのが初めて、三年後に二六人、三六年后に三千人近くに激増している。他の百貨店も続いた。銀行や保険会社も事務員、タイピスト、電話交換手に女を採用し始めた。日本銀行が最も多く一九二四（大正一三）年に事務員二五七人・補助員二九三人。昭和初期にはダンサーやカフェ



「東京マネキン倶楽部」のマネキン

野でも女がキャリアを重ねる環境が整うのは、戦後もはるかのことになる。

単純作業で低い給料

エ女給が増え、中央区だけで五、六千人いたようだ。

女性誌で華やかに取上げられ、新たな職業を拓いたのは確かだが、問題も多い。専門的な職能を持った人はわずかで、会社員や職員といっても単純作業が多く、男とは待遇差が大きい。女の労働は家計の補助とみなされたし、女自身の職業人としての自覚も低かった。特別な専門職だけでなく、店員や事務分

江刺昭子（えさしあきこ）氏プロフィール

1942年生まれ。早稲田大学教育学部卒業後、編集者を経てノンフィクションライター、女性史研究者。著書は『草履一評伝大田洋子』『女のくせ（ジャーナリスト）たち』など。各地の地域女性史の編纂・執筆にあたり、『中央区女性史—くつもの橋を渡って』でも編纂指導と通史執筆を担当した。

中央区女性史

「中央区女性史」は、平成19年3月に刊行されました。

女性史研究家・作家の江刺昭子氏が執筆した「通史」と中央区に住む語り手の女性たちの歴史を区民公募の編さん委員が聞いた「聞き書き集」の二冊で構成され、公の歴史の中では埋もれがちだが、時代を担ってきた女性の生活史をまとめるとともに、中央区の女性たちの暮らしや生き方の変化を記録しました。ぜひ、歴史に興味のある方は手にとってみてください。

女性センター「ブーケ21」、区役所本庁舎1階刊行物コーナーで頒布中です。また、一般の書店でもご注文の取扱をいたします。



「中央区女性史」

・聞き書き集
・通史

1,500円＋税
1,900円＋税



輝くひとにインタビュー

in 中央区

新しい古書との出会いが 毎日を豊かにしてくれます。

R.S.Books 店長

渡辺明子さん



古書店で働くきっかけは？

元々は教員を目指していましたが、一般的な社会経験をしてから教師になりたいと考えて、コンピュータ関連の会社に就職し、その後、派遣社員として働いていました。

あるとき、求人雑誌で、「古書店の店長候補募集」という記事を見つけたことが、今のお店で勤めるきっかけです。営業や店頭での販売などの経験もなかったですし、もともと読書は好きでしたが、古書が特別好きだったというわけではありません。とにかく「やってみたい!」という衝動を覚えました。



転職への戸惑いはありましたか？

コンピュータ関連会社に就職したのは、新しいものの好きな自分に向いていると思ったことが理由の一つでしたが、職場には自分よりも新しいものが好きで、それを追い求める人がいました。ところが、古書店で働く中で、古いものを追い求める面白さに目覚めた自分を初めて発見し、この仕事が自分には向いていたのかなと今では思っています。

学生のうちは、自分のことがわかっていようでなかなかわかりませ



R.S.Booksさんは女性スタッフの方が多いですね。

んし、その仕事が自分に向いているかなど、働いてみて初めて適性がわかるのかなと思います。

R.S.Booksは、東京駅八重洲地下街の中に出没していますので、まわりの客層を考えて、店舗を現代的な店構えにしたり、女性スタッフを多くして接客に力を入れたいというのが、オーナーの考え方でした。

お客さんによつては、古書店というと男性店員のイメージを持たれている方もいますが、女性が接客することのプラス面もありますし、私自身はあまり意識したことがないですね。現在では、スタッフ13名全員がなぜか女性です。

古書店というのは、店頭で本を売



**お仕事の魅力ややりがいを
感じるころは？**

っているだけでは当然なくて、本の手入れや在庫管理、古書の買取や売買価格の値段付けなど、様々な仕事があります。本を運んだり、並べたりと体力を使う仕事も多いですが、特に、女性だからきついなどということはありません。

固定客が多いので、古書に関する話題で会話が弾みます。あらゆる本のことに答えられるように、常に情報収集と勉強ですが、今までまったく知らなかったジャンルや書籍に出会えることは楽しみの一つです。

また、お客さんに「十年以上も探していた本が、やっとここで見つかった」と言ってくれてもらえたときなどは、私もうれしくなります。



**今後の抱負などを
教えてください**

お店で隔月発行している広報紙「えぼく」で、八重洲の歴史を紹介する「コーナーを担当しており、今年で10年目になります。おかげで歴史書などをよく読むようになり、東京史に対する興味が沸いてきたところです。これから、もっと勉強して、さらに追求していきたいと思っています。

企業レポート⑨

株式会社東京コンサルタント(八丁堀)

働き続けられる環境をめざして
「ダイバーシティ・プロジェクト」

「仕事はワクワク楽しく」を経営理念として掲げる求人広告代理業の(株)東京コンサルタントでは、良質なサービス提供のために、まず社員自身が楽しんで仕事に取り組んでいく必要があるとして、社員一人一人の多様性に配慮した組織づくりを考える「ダイバーシティ・プロジェクト」を2006年に立ち上げ、社員の方々がプライベートと仕事を両立しながら活躍できるようにさまざまな取り組みを行っています。



株式会社東京コンサルタント
取締役総括部長の佐藤よし美さん

このプロジェクトでは、社内アンケートや業務時間調査を行いながら、効率的な業務改善やワーク・ライフ・バランスの普及に取り組んでいます。



社内ポスター

育児休業中の社員の職場復帰や子育てに関する疑問と不安の解消を図るなど、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。これらの取り組みは、平成20年度東京ワークライフバランス認定企業(育児・介護休業制度充実部門)にも選ばれたところです。(下欄「ワーク・ライフ・バランスって何?」参照)

今回の取材に同行した区民事業スタッフの橋谷信代さんも、「だれもが働きやすい環境を会社が整えてくれば、男女の別なく自分の能力を発揮できるし、評価もされれば、自分たちだけではなく社会全体にいい結果をもたらしてくれるのでは」と感想を話してくれました。

東京コンサルタントの社員125名(平成21年3月)の平均年齢は29歳と、若さと明るい雰囲気の中での楽しみながらの取り組み姿勢に力強さを感じました。



社内報

バーシティに関するポスターや社内報を作り、広く社内の情報提供とコミュニケーションの円滑化に役立てています。特に、社内報は「担当している社員自身が楽しんで作っているようですが、他社の方からも大変好評」(佐藤さん)だそうです。

ワーク・ライフ・バランスって何? ③

ワークライフバランスフェスタ東京2009

平成20年度 東京ワークライフバランス認定企業

長時間労働削減取組部門	年休取得促進部門
新栄工業 株式会社(板橋区) 株式会社 富士国際旅行社(新宿区)	株式会社 アイ・アイ・エム(文京区) 株式会社 T4C(港区) 株式会社 フォーネット社(文京区) 株式会社 インデックス(渋谷区)
育児・介護休業制度充実部門	多様な勤務形態導入部門
インフォテック・オブ・ザ・ネクスト 株式会社(新宿区) 医療法人社団 北原脳神経外科病院(八王子市) 株式会社 東京コンサルタント(中央区) 株式会社 トライアンフ(渋谷区)	株式会社 経営支援(町田市) 株式会社 ヒューマンシステム(港区)



メインステージでの認定企業紹介

東京都では、従業員が仕事と生活を両立しながらいきいきと働き続けられる職場の実現に向け、優れた取り組みを実施している企業を平成20年度東京ワークライフバランス認定企業に認定し、その取り組みを社会全体に広げていく目的で、2月18日に「ワークライフバランスフェスタ東京2009」を開催しました。

会場となった東京国際フォーラムでは、メインステージで認定状授与式や基調対談の他、認定企業の優れた取り組みを映像やパネルで紹介するブースや、ワーク・ライフ・バランス推進に取り組む企業向け相談コーナーなど、多彩な催し物が行われ、4,129名の方が来場し、大変盛況でした。

感動報告

中央区女性ネットワーク・中央区共催

ひなまつりロビーコンサート

女性センターでのひな祭り行事として恒例となりました「ひなまつりロビーコンサート」が、3月3日(火)に中央区女性センターで催されました。

今年の参加団体は6団体で、おひな様や生け花で華やかに飾られた1階ロビーを舞台にコーラスやフルート演奏、日本舞踊に南京玉すだれが行われる中、お汁粉が見ている人たちに振る舞われました。

春の訪れがまちどおしい昼間のひとときを、出演者と客席が一緒になって楽しむ姿が印象的でした。



感動報告

男女共同参画講演

(中央区女性ネットワーク主催)

春を呼ぶフルートの調べ
——ハーモニーの創造

中央区女性ネットワーク主催による男女共同参画講演が2月21日(土)に女性センター1階ロビーで開催されました。

今回は、フルート奏者の中野真理さんを講師としてお招きし、男女合わせて80名の方が参加されました。

フルート演奏とともに、演奏の合間のトークでは、プロ奏者としての厳しさと、女性奏者として子育てをしながらの演奏活動を大変さなどが語られました。

後半はハープ奏者の都筑紀子さんも加わり、それぞれの楽器の紹介や音楽に関する話や質問、フルートとハープの合奏で終了しました。



見に来た方々から「フルートとハープのやさしい音色が気持ちよかったです」「クラシックばかりではなく、いろいろな曲を満喫できました」「楽器の解説など勉強になりました」などの感想が寄せられ大好評でした。

二人の奏でるハーモニーと、中央区女性ネットワークが目指す、男女がともに協力しあうハーモニーとが共鳴しあって、心豊かになるひとときでした。

体験報告

中央区ブーケ祭り実行委員会①

今年のテーマは「絆深めて共に輝く」に決定

今年で第8回目を迎えるブーケ祭りの開催に向けて、初めての「ブーケ祭り実行委員会」が2月10日に「ブーケ21」で開かれました。

今年の参加団体は、新たに3団体を加えた全33団体となりました。各団体からの代表者と個人参加の方の自己紹介の後に、小林里美会長が前回から引き続き会長に選任されるとともに、企画・広報委員その他の専門委員会の分担や各リーダーもスムーズに決まり、和気あいあいとした中にも活気ある話し合いが進められていました。

今回のブーケ祭りのテーマは、「絆深めて共に輝く」。話し合いの様子から、参加するだれもが共に輝

くブーケ祭りが期待できそうです。

新着図書のご案内

女性センターには、性別にとらわれない、自分らしい生き方を応援する資料が揃っています。ぜひご利用ください。

「おんな作家読本
〔明治生まれ篇〕」市川慎子 著
ポプラ社「女性のための
仕事・資格ベストガイド
〈2010年版〉」

池田書店



第1回ブーケ祭り実行委員会の様子

「女性に対する暴力をなくす運動」 啓発パネル展示



日本橋図書館展示コーナーにて展示

毎年11月12日から11月25日の2週間は、「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。期間中は、国と、地方公共団体、女性団体、その他関係機関が協力・連携して、女性に対するあらゆる暴力の根絶に向けた意識啓発などの強化に取り組んでいます。

中央区では、この運動にあわせて、11月12日から12月17日まで、女性に対するあらゆる暴力の根絶のための啓発パネルの展示を、女性センター「ブーケ21」での常設展示とともに、区本庁舎、日本橋・月島両区民センター、日本橋図書館で巡回展示を行いました。

この展示は、今年度で5回目となりましたが、今回は、「パープルリボンの木を咲かそう!」と題した参加型イベントを同時に行いました。

「パープルリボン」とは、1994年にアメリカのニューハンプシャー州からはじまり、今では国際的に発展した運動で、「暴力や虐待のない世界にしたい」という思いを紫色のリボンで衣服などにつけて意思表示するというものです。

各展示会場では、「パープルリボンの木」のボードを用意して、パープルリボンを印刷したシールをその趣旨に賛同する方々に貼ってもらう、期間中で、計550名の方に協力をお願いしました。巡回終了後には、その「木」を集めて、「パープルリボンの森」として、女性センターで展示いたしました。(1月末日まで展示終了)

配偶者などからの暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等、女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していくうえで克服すべき重



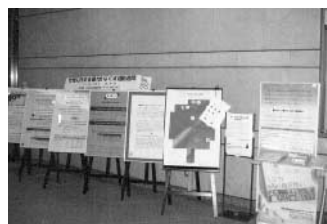
パープルリボンの木



中央区役所本庁舎



月島区民センター



日本橋区民センター



女性センター「ブーケ21」

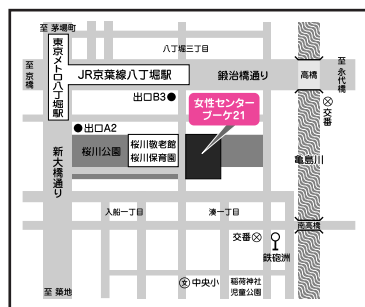
要な課題です。女性センターでは、今後も女性に対する暴力をなくしていくために、いろいろな取り組みを行ってまいりますので、より一層のご協力をお願いいたします。

館長雑記

2月の受験生たち

▼通勤途上の電車で、受験生たちと乗り合わせる事の多い季節になりました。少しの時間も惜しんで、ノートの赤線に目を通したり、受験会場への地図を確認したりと、一生懸命な彼らの姿を見かけると、心から応援したくなります。彼女や彼たちの将来にはどんな仕事か待っているのでしょうか。夢や希望があふればかりの彼らの姿は、受験という大きな試練さえ、楽しんでいるかのように見えてしまいます。▼いま、職業選択の上で、制度上の男女差別はなくなっています。法曹界、建設業界など、少し前まで男性主導だった分野にも女性の姿がかなり見られるようになりました。男女のバランスのとれた視点に立った制度やまち・建築などが出来る可能性がようやく出てきたわけです。▼「男だから」、「女だから」などといった場合ではなくなりました。社会のあらゆる分野で、女性も男性も共に協力し責任を分かち合い、社会に参画していくことが求められているのです。(松川淳子)

中央区女性センター「ブーケ21」へ来てみませんか。



研修室等や図書の貸出のほか、女性のための無料相談も行っています。

- 所在地 〒104-0043 東京都中央区湊1-1-1
東京メトロ日比谷線・JR京葉線八丁堀駅
A2・B3出口から徒歩3分
- TEL.03-5543-0651 FAX.03-5543-0652
- 開館時間 午前9時～午後9時
(年末年始、臨時休館日を除く)